

大阪経済法科大学 数理・データサイエンス・AI教育プログラム
2024年度(令和6年度)自己点検・評価について

自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	令和6年度は、1285名がプログラム対象科目を履修し、うち14名が修了することとなった。以上の結果と経験を踏まえ、令和7年度からはさらにプログラムの周知をすることで、数理・データサイエンス・AI教育を広く展開する。
学修成果	情報教育運営会議を中心に、プログラムを構成する授業の合格率・出席率、秀、優、良、可、不可の割合いなど、客観的で定量的なデータを用いて学修成果を直接的に把握している。令和6年度においては、プログラム対象科目履修者は1285名である。プログラム対象科目の科目合格率平均は73.6%となっており、令和7年度においても、継続的な授業改善と丁寧な学修指導を行うことで、高い合格率の維持に努める。
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	本学では全科目に対して「授業・学修評価アンケート」を実施している。「この授業を通して、身につけるべきものとして期待された知識、技能、考え方などを得られましたか。」の項目の分析により学生の主観的な理解度を把握している。令和6年度の同プログラム対象科目の平均は、5点満点中4.41点であり、学生の主観評価においては高い理解度を確保できたと評価できる。
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	本学では全科目に対して「授業・学修評価アンケート」を実施している。「総合的に、この授業に満足していますか」の項目の分析により推奨度を評価している。令和6年度の同プログラム対象科目の平均は、5点満点中4.32点であり、学生の主観評価においては他の学生に推奨できる水準に到達していると考えられる。
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	上述のとおり、令和6年度は、1285名がプログラム対象科目を履修し、うち14名が修了することとなった。令和7年度は、各学部学年ガイダンス内で同プログラムの周知等を行うなど、広く展開していく。
学外からの視点	
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	修了者のうち、2名は2024年度卒業生である。当該学生らについては、プログラムを修了する過程で、ITパスポート試験やMicrosoftOffice365資格を取得するなどし、製造業界、建築業界への進路となった。2025年度卒業予定者については、IT業界への進路を検討している学生も一部いる。
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	産業界や他大学有識者等からは、教育プログラムの内容が、「社会におけるデータ・AI利用に関連し、社会で起きている変化・社会で活用されているデータについて説明できる。」「データ・AIの活用領域、利活用のための技術・現場・最新動向について説明できる。」「データリテラシーに関連し、データを読む・説明する・扱うことができる。」「データ・AIを扱う・データを守る上での留意事項について説明できる。」といった学修目標に沿ったもので、社会で求められる知識や技能を身につけるための内容である等の意見があった。
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	プログラムを構成する授業では、最新の内容や身近な事例も扱いつつ、座学だけでなく実際にソフトウェア(Excel等)を操作しデータ処理・分析を実施することで「学ぶ楽しさ」を喚起するような授業を展開している。また、背景となる、Society5.0に向けたAI戦略2019や、IT人材不足の現状(経済産業省のレポート)も説明することで、「意義」を理解させるように努めている。くわえて、生成AIの活用のためのプロンプトエンジニアリングについての、実践的な取組も行っている。
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること	全1年生が同プログラム科目を履修することから、全体の合格率・出席率、秀・優・良・可・不可、課題の成績等の定量的なデータ、及び「授業・学修評価アンケート」の分析、学生からの声、科目担当教員の授業改善報告書等の現場教員の声、産業界や他大学有識者の意見等を総合して、情報教育運営会議において、毎学期、授業の総括を行い、学修目標を落とすことなく、分かりやすい授業となるよう努めている。令和6年度は全1年生に対して同プログラムを実施したが、合格率は83%を超えることができた。令和7年度においても引き続き内容・水準を維持・向上させつつ、より「分かりやすい授業」とするため、授業内容と教科書の再検証、動画教材等(事前事後学修で利用可能)をさらに充実させる等の授業改善の取り組みを進める。